



シンクイムシ類の被害が早生・中生品種を中心に断続的に発生しています。次年度へ越冬防止のため、被害果を見つけ次第、水没処理等を実施してください。また、炭そ病の果実病斑は小発生状態ですが、中生種等への二次感染防止のため、被害果を見つけ次第、園地外へ運び出す等の対策を講じてください。残暑が厳しい予報が出ていますが、秋季の各種病害虫防除のため、引き続き一定の間隔で定期散布を進めてください。

りんご

9 月上旬の薬剤散布

◆ 散布日：9 月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期： 9 月 1 日～5 日（前回散布から 15 日後）

散布薬剤： 水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

ストライド顆粒水和剤 6 6 g（前日、3 回）*注意事項②、③参照

ダントツ水溶剤 2 5 g（前日、3 回）*注意事項④参照

対象病害虫：炭そ病、すす点・すす斑病、褐斑病、斑点落葉病、シンクイムシ類、カメムシ類
キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、コナカイガラムシ類、リンゴワタムシ

散布量：10 アール当たり 600 リットル

〔注意事項〕 *必ずお読みください。

- ① 曇天・降雨が続いている場合は、上記の日程より早めて散布する。
- ② ストライド顆粒水和剤は高温時（30℃以上）に散布すると薬害（葉焼け他）を生じる恐れがあるので、涼しい時間帯に散布する。
- ③ ストライド顆粒水和剤に代えて、ベフラン液剤 25 の 1500 倍（前日、3 回）でもよい。ただし、成分がイミノクタジンを含む薬剤（ベフラン液剤、ダイパワー水和剤）の合計使用回数は年間 3 回までとなっているので注意する。
- ④ 早生・中生種等でシンクイムシ類の被害が目立つ場合は、ダントツ水溶剤の使用倍率を 2000 倍（100 リットル当たり 50g）に引き上げる。
- ⑤ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定する。また、過繁茂園では、薬液が樹内部まで到達するよう徒長枝切りや支柱立て等を散布前に実施する。